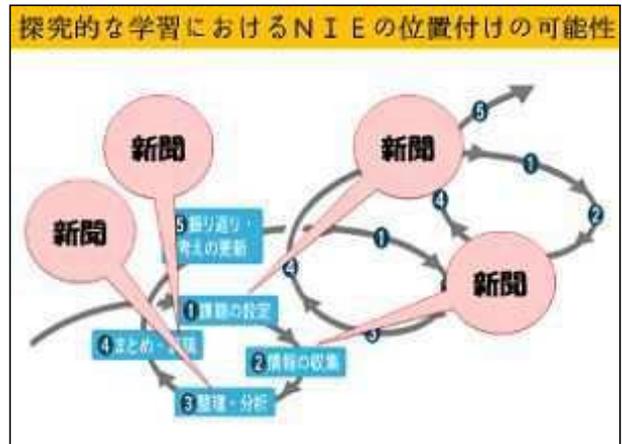


令和6年度 新潟市新聞活用教育（NIE）推進事業 実践報告集

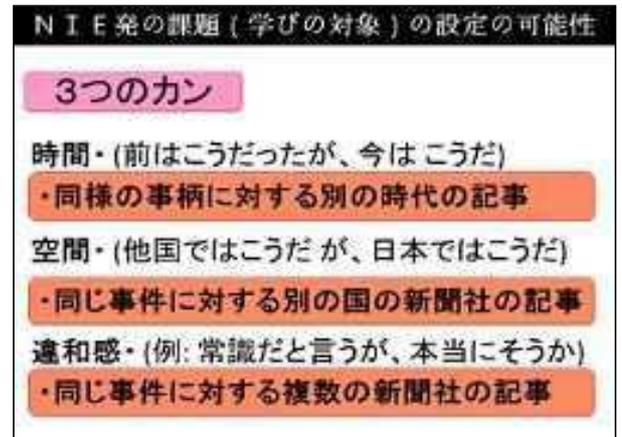


NIEが育成する資質・能力

- ① 「なぜ？どうして？」という問題発見力、「どうしたらよいのか」を追究する探究力
- ② 新聞づくりは、情報収集に基づいた「思考・判断・表現」活動そのもの
- ③ 投書や取材を通して社会とのつながりを実感する
など

探究的な学習における位置付け

- ① 学習課題を作る過程でも
- ② 情報収集でも
- ③ 情報を整理分析する場合にも
- ④ まとめる学習の段階でも



1時間の学習過程での位置付け

- ① 問題意識を高める記事
- ② 解決を追求する解決するための記事
- ③ 学んだことを確認する記事
- ④ まとめ・振り返りのための新聞づくり

先生方がいかに子どもの疑問や問題意識を触発するかが鍵になります。

3つの「カン」を手がかりにして考える手もあります。子どもがギャップに気付き、疑問や問題意識がわいてきたらそこを課題とすることもできます。

もくじ

○ 巻頭言

1	太夫浜	小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	中野山	小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3	上 山	小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4	早 通	小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5	新津第二	小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	5
6	小 林	小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	6
7	新 通	小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	7
8	中之口西	小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	8
9	松 浜	中学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	9
10	石 山	中学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	10
11	寄 居	中学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	11
12	両 川	中学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	12
13	金 津	中学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	13
14	白 南	中学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	14
15	小 新	中学校	・・・・・・・・・・・・・・・・	15
16	東 特別支援学校		・・・・・・・・・・・・・・・・	16

<巻頭言>

N I Eが育む力

新潟市教育委員会学校支援課
課長 三條 貴之

変化の激しい現代社会において、子どもたちが未来を切り拓くためには、知識の獲得だけでなく、思考力や判断力、表現力を育むことも重要です。そのためには、多様な情報源を活用し、現実の社会と密接に結びついた学びが必要不可欠であり、その点において、新聞を教材として活用する NIE (Newspaper in Education) は、極めて有効な手段であると確信しています。

新潟市新聞活用教育 (NIE) 推進事業は、新潟の未来を担う子どもたちが、新聞を活用することで活字に慣れ親しみ、思考力・判断力・表現力や情報リテラシー等を高め、確かな学力を身に付けることを目指しています。

令和6年度も、市内各区の小学校、中学校、特別支援学校、中等教育学校、高等学校の中から計16校を推進校に指定し、新潟県 NIE 推進協議会の協力を得て、新聞の複数紙配備を行いました。NIE は、学校や教室の枠を超えた学びを促進し、児童生徒の知識技能の幅を広げる貴重な取組です。NIE を通じて、未来を担う子どもたちが健全で力強い社会の一員として成長することを期待しています。

本実践報告集は、各学校における NIE の実践事例をまとめたものです。子どもたちが新聞を活用し、主体的に学び、成長していく姿がいきいきと描かれています。これらの実践が、各学校における NIE の更なる発展につながり、子どもたちの未来を切り拓く力を育む一助となることを願っています。

新潟市立太夫浜小学校

太夫浜小学校長 中村 香

新聞活用の様子

全校児童が、新聞に慣れ親しみ、興味関心のある記事や必要な情報を得られるように、新聞を自由に閲覧できる場を設けました。



「新聞ジグソーパズルをしよう」の授業では、記事の写真や見出しの位置に着目して、新聞1面に何が書かれているかを興味をもって読むことができました。【3年 国語】



出前授業「新聞記事の書き方を学ぼう」では、新聞の読み方や新聞用語について学習しました。新聞記者の仕事についても実際の経験を元に教えていただきました。【4年 国語】



出前授業「新聞の読み比べをしよう」では、実際の新聞記事を読みながら、記事の書かれ方にどのような違いがあるのかについて考えました。【5年 国語】



図書館内や図書館前の廊下掲示板に新聞が閲覧できるコーナーや記事の紹介コーナーを設けました。付箋にどんな記事なのか簡単な紹介を書いて付けました。

担当の先生から

- ・出前授業では、新聞作りの詳しいことを直接お聞きすることができました。キャリア教育としても今後の参考になりました。
- ・普段あまり新聞にふれる機会が多くない児童にとって、手に取りやすい環境を整えること、興味関心を高める授業をすることの大切さを感じさせられました。授業後、「新聞を読んできたくまりました。」という児童の振り返りを読み、今後も継続していきたいと思いました。

新潟市立中野山小学校

中野山小学校長 増井 一久

新聞活用の様子

新聞に慣れ親しみ、学習や生活の中で新聞を活用する子どもの姿を目指して、以下のような取り組みを進めてきました。

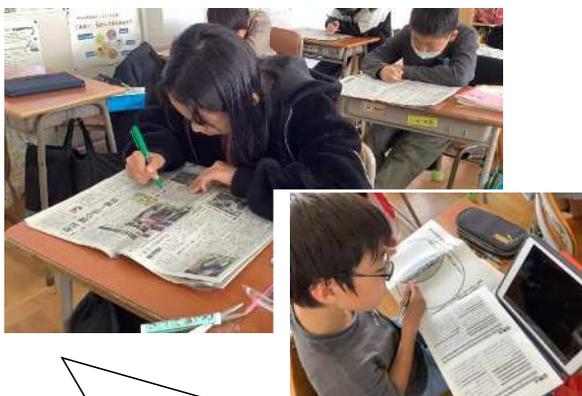


図書館
新聞コーナー

新聞コーナーでは、自由に新聞を選んで閲覧することができます。関心をもつ児童も少しずつ増えてきています。



社会「未来をつくり出す工業生産」の学習では、実際に起こった事例を新聞から取り上げ、資料として活用しました。



国語「新聞記事を読み比べよう」では、新聞の「見出し」「写真」等の構成の工夫を学びました。



総合的な学習をはじめとし、様々な教科で、「ふむスタ」の「クミハン」を活用した新聞作りを取り入れました。

担当の先生から

今年度は、様々な学習の中で、新潟日報の「ふむスタ」の活用を試みました。データベースで検索した過去記事は、子どもたちの調べ学習だけでなく、教師の教材・資料づくりにも大変役立ちました。また、「クミハン」は、子どもたちにも活用しやすく工夫されており、新聞作りのスキルだけでなく、子どもたちを意欲面でもサポートしてくれました。今後も、各学年や各教科で活用場面をさらに増やしながらか、学習の中での新聞の活用方法を探り、位置付けていきたいと考えています。

また、図書館の「新聞コーナー」は、身近な情報ツールとしての新聞の役割をより多くの子どもの体感できるよう、興味を引くひと工夫を加えながら、これからも継続して設置していきたいと考えています。

新潟市立上山小学校

上山小学校長 中谷 記子

新聞活用の様子

子どもたちが活字に慣れ親しむことと、思考力・判断力・表現力等や情報活用能力を高めることを目指しました。そのために、図書館に「新聞コーナー」を設けたり、ゲストティーチャーの方から新聞に関わる良質な知識を得たりしました。



全校

活字に慣れ親しむ「新聞コーナー」



5年生国語

メディアと情報のリテラシーを高める「新聞記事読み比べ学習」



6年生

効果的な見出しの書き方や割り付け方を学ぶ「新聞づくり出前授業」



6年生

調べて事柄を比較・分類，総合，関連付ける力を高める「歴史人物新聞づくり学習」

担当の先生から

【成果】新聞を読んだり，新聞をつくったりするための知識を，子どもたちが身に付けることができた。また，「クミハン」を活用することで，活字に親しみつつ学んだことを新聞に表現することができた。割り付けを選べば手軽に作成できるので，集めた情報を活用して新聞に表す活動は継続して取り組みたい。

【課題】新聞活用の中心が，高学年となってしまった。低・中学年が，新聞を読んだり，新聞をつくったりする工夫が必要である。

新潟市立早通小学校

早通小学校長 岡田 義則

新聞活用の様子

日ごろから新聞を身近に感じ、必要な情報を活字から得ることができるように、環境を整えてきました。学習内容に応じて、新聞を活用する実践を行いました。



【3年 国語】新聞を読み比べよう
小学生新聞2紙を読み比べ、見出しや写真などの違いに気付くことができました。

【4年 国語】アップとルーズで伝える
伝えたいことによって、写真の撮り方に違いがあることに気付き、その効果を考えました。



【5年 国語】新聞記事を読み比べよう
2つの新聞を読み比べ、異なる記事の書き方に注目し、書き手の意図を考えました。

【6年 国語】インターネットでニュースを読もう
インターネットのニュースと新聞記事を読み比べ、それぞれの特徴について話し合いました。

担当の先生から

新聞を活用することで、社会への関心を高めたり、読み手に伝えるための工夫について考えたりすることができました。今後も学年に応じ、新聞を取り入れた活動を続けていきます。

新聞活用の様子

【4年生の実践】



新聞に親しむ第一歩として、子どもも新聞を読み、自分の興味のある記事を紹介し合いました。

毎週水曜日のモジュールの時間を「ふむスタ」タイムとし、新聞記事に触れる時間を設けました。

その中で、学校自慢に新津第二小学校を紹介してもらえるよう日報社に新聞を書いて送りたいという願いをもちました。



新聞を書くために日報社から木村記者をお招きし、新聞を書くときに大切なことを教えていただきました。

【全校での実践】

学年の実態に応じて「ふむスタ」を活用する時間を設けました。同じ記事をクラス全体で共有して意見交換をしたり、時事について知ったりすることができました。



アドバイスを生かし清書した新聞を日報社に送りました。文化祭に掲示して、来校者に見ていただきました。



木村記者から自分たちの記事についてアドバイスをいただきました。

【5年生の実践】

国語では文章読解と要約の力を伸ばそうと、「ふむスタ」から見つけた記事から内容を読み取り、紹介し合う活動をしました。



社会科「未来をつくりだす工業生産」では、自動車会社に関わる記事を読み合いました。読みながら学習した内容との関連を確認しました。

「ふむスタ」から気になる記事を見つけて、帰りの会で紹介するスピーチを行いました。

担当の先生から

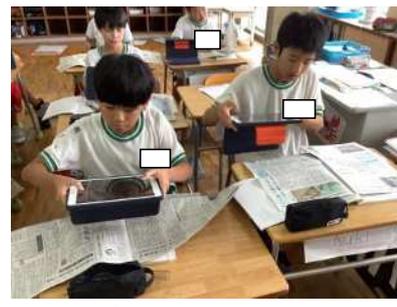
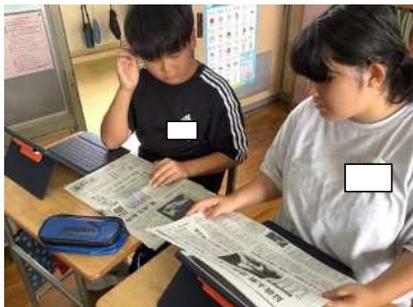
- ・ 家庭で新聞を読む機会がない児童が新聞に触れる機会をもつことができました。特に「ふむスタ」はルビが振ってあり低学年でも記事を読むことができ、いろいろな場面で活用することができました。県内の時事に興味をもつきっかけとなりました。
- ・ 「ふむスタ」タイムを継続して取り組み、県内の時事に興味をもたせたり、子ども新聞と新聞、地方紙と全国紙とを比較させることで見方・考え方を広げさせたりしていきたいと考えています。

新潟市立小林小学校

小林小学校長 中川 日里

新聞活用の様子

図書館前の「新聞コーナー」を活用し、新聞に慣れ親しんだり、新聞記事について思ったことを伝えたりしました。授業でも積極的に新聞を活用しました。



5年生の国語「新聞記事を読み比べよう」では、全国紙と地方紙の違いを考えました。

4年生の国語「新聞を作ろう」では、実際の紙面を見ながら新聞の構成を学習しました。

6年生の国語「インターネットでニュースを読もう」では、デジタル版と紙面版の違いについて学習しました。



6年生が、新聞記事を読んだ感想について、朝の会でスピーチしました。発表した記事は、廊下に掲示しました。この活動は年間を通して継続しています。

担当の先生から

新聞がすぐ手に取れる環境を整えることで、児童は新聞を身近なメディアと感じていたようです。記事の内容に関心を持ち、自分自身の生活にも関わる問題について考えたり、様々な情報を得たりすることができました。読むだけでなく、感じたことや思ったことを発表する機会を設けることで、児童の主体的な活用につながると感じました。

新潟市立新通小学校

新聞活用の様子

新通小学校長 浅野 秀之

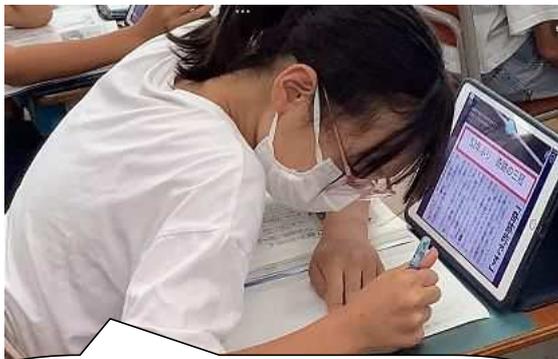
校内研修の一環として、新聞を活用した授業を実施しました。国語科の読むことを中心に、社会科で自分の考えの根拠をもつこと、道徳科で道徳的価値の強化を図ることなど、様々な実践を行いました。さらに、新潟日報未来読者推進室より講師をお迎えして、新聞作りに対する特別授業を行いました。



新聞作りを行うため、新聞の工夫を見付けました。（4学年）



グループで作った新聞を未来読者推進室よりご講評いただきました。（4学年）



記事を読み、筆者の意図に合わせた見出しを考えました。（5学年）



新聞とネットニュースを比較し、それぞれのよさを見付けました。（6学年）

担当の先生から

新聞を活用した授業により、児童の新聞への関心も高まってきました。今後も、教科の内容と関連させ、新聞を手立ての一つとして積極的に活用していきます。また、「ふむスタ」を活用して情報を集める姿や、家庭学習において新聞のスクラップ記事と自分の考えをセットにした学習に取り組む児童が増えました。今後は、教師の側から新聞活用を促すだけでなく、児童が主体的に新聞に向かえるよう、働き掛けていきたいです。

新潟市立中之口西小学校

新潟市立中之口西小学校長 石山 博之

新聞活用の様子

今年度、当校ではNIE推進事業を受けて、以下の取組を行いました。

- ・3・4年生で、学習したことをまとめる新聞づくり
- ・図書室に「新聞クイズコーナー」の設置
- ・全校で朝のスキルタイムに「新聞文字探し」の取組

その他、NIE講師による職員対象の出前講座、教室への新聞配備も行いました。

3年生総合「調べたことを新聞でまとめよう！」



総合的な学習の時間に、介護・福祉について自分が興味のあることを調べて、新潟日報教材アプリ「ふむスタ」で新聞作成をしました。

4年生国語「新聞を作ろう」



新聞記事をよく読み、見出しや割り付けなど、新聞にある工夫を探して、自分の新聞づくりに生かしました。

図書室「新聞クイズ」



図書室の入口に、週2回ほど「毎日小学生新聞」の記事からクイズを出題しました。

全校の取組「文字探しに挑戦しよう！」



全校で朝のスキルタイムを活用し、新聞に書かれた文章から「の」などの文字を探して、いくつ見つけれられたかを競いました。

担当の先生から

自学級の子どもたちに「新聞を読んだことはあるか」と聞いたところ、ほぼ全員が「ない」と答えました。そのような子どもたちに新聞を読ませたり書かせたりすることに不安がありました。しかし、新聞活用を推進する過程で、新聞の魅力にのめりこんでいく子どもたちの様子が見られ、驚きました。NIEの推進を通して、より身近で親しみやすい資料・読み物として、新聞活用を教育活動に位置付けていくことが必要であると感じました。今後も、新聞を各教科と関連させながら活用していきます。

令和6年度 新潟市新聞活用教育（NIE）推進事業実施報告書
新潟市立松浜中学校

新聞活用の様子

松浜中学校長 南 幸彦

○総合的な学習の時間【1年生】「SDGsを通して世界とつながろう」

新聞記事を読み、オピニオン記事などのニュースに触れる機会を作りました。

一人1枚ワークシートを作成し、その記事が、どのSDGsのゴールに当てはまるかを考えました。自分の中で考えを咀嚼し、教室の仲間に向けて発表しました。

○新聞記事インフォメーションコーナーの設置

新聞記事インフォメーションコーナーで
いつでも新聞を手にとれる環境に！



SDGsのゴールを全体で確認し、新聞の記事と関連付けながら課題を説明しました。



図書委員会とコラボレーション！

新聞記事を活用したSDGsスクラップを掲示しました。



班のメンバーと新聞を交換しながら「この記事いいんじゃない!」と意見交換しました。



各自で作成した新聞記事を紹介し、お互いに違う視点を持っていることに気づきました。

担当の先生から

新聞を購読している家庭数は年々、減少傾向にあります。そのため、新聞と触れ合う機会が学校にあるということは重要度を増しています。

本取組では、総合的な学習の時間と関連付け、SDGsのゴールという視点を生徒に持たせ、新聞記事を読みました。新たな視点を持つことで、新聞記事の見方が広がり、「こんな記事もあるんだ!」と新鮮な学びを得る生徒が多くいました。今回の活動で新聞記事の授業での活用例を示すことができました。身近なところで継続的なNIE教育に取り組めるよう教科部でカリキュラムの検討を行っていきます。

新潟市立石山中学校

校長 眞田 和徳

新聞活用の様子

校内OJTの一環として英語科でNIE実践を行いました。新聞の構成が5W1Hであることに着目し、アメリカで暮らす日本人や日本語を学ぶアメリカ人に伝えたい記事を選び、要約とともに自分の感想や記事に関する質問をしました。



「出前授業」では新聞の構成などについて、興味深く学びました。



数社の新聞を読み比べながら、紹介したい記事を探しました。



記事を要約するために、ロイロノートで5W1Hに当たる場所に色を付けていきました。



ICT支援員さんにも協力してもらい、アメリカとZoom交流をしました。記事に関連するやりとりもしました。

担当の先生から

情報があふれる今、自分に必要な情報を取捨選択する力が求められます。今回は数社の新聞を提供していただいたことで読み比べもでき、生徒は様々な伝え方があることに気が付きました。また5W(When, Where, Who, What, Why (今回はなぜこの記事を選んだか) 1H(How)を見つけて要約することで、英語の授業でも難しいと感じる要約も身近に感じていました。事実に対して意見や疑問をもつことで、世界の動きをより一層身近に感じたようです。今後もこのような取組を英語科で続けるなど、新聞活用の可能性をさらに模索していきます。

新潟市立寄居中学校

新聞活用の様子

寄居中学校長 山田 聡

当校では、新聞を活用し、次の2つの取組を行いました。

- ① 毎朝、各学級に新聞を配布し、日直が新聞の中から気になる記事を探し、感想を添え、終学活で『今日の記事』として学級全体に紹介する取組。
- ② 9～11月に計3回、『寄居新聞 DAY』を設け、学活や朝読書、終学活の時間を活用し、全校や体育祭の連合、学年ごとに1つの記事について考え、議論し、共有する取組。

以下では、②『寄居新聞 DAY』の取組について紹介します。



【STEP 1】自分の考えをもつ

- ・ iPad に送付された新聞記事を読み、ワークシートに自分の考えを書きました。もっと知りたいと思ったことは、iPad を使って調べました。
- ※9月は生徒会が選んだ記事、10月は体育祭応援リーダーが選んだ記事を連合ごとに、11月は学年委員会が選んだ記事を学年ごとに考えました。



【STEP 2】議論する

- ・ 自分の考えをもとに、4～5人のグループで議論をしました。左の写真は、「教科書は紙が良いか、デジタルが良いか」について、それぞれのメリット、デメリットを挙げながら議論している様子です。生徒同士での意見交流を通して、考えが変わったり、同じ立場でも考えが深まったりする様子が見られました。



【STEP 3】共有する

- ・ 1階ホールに、新聞記事と共に各クラスから数名の生徒の意見を掲示しました。左の写真は、学年ごとに異なる記事について考えた11月の様子です。興味深そうに友達の意見を読んでいる姿や、他の学年の生徒と意見交換をしている様子が見られました。

担当の先生から

新聞を活用した上記の取組、特に②『寄居新聞 DAY』の活動を行ったことで、休み時間中も記事について熱心に議論している生徒の姿が見られ、新聞の教育的価値を改めて感じることができました。

これからも、新聞を通じて社会で起こっていることについて関心をもたせたり、授業で学習している内容と関連付けたりすることで、自分たちが社会のために何ができるのかなどについて考えさせていきたいです。

新潟市立両川中学校

両川中学校長 伊藤 裕之

新聞活用の様子

- ・当校は新潟日報と朝日中高生新聞を購読しています。今回の事業で朝日新聞、毎日新聞、そして新潟日報をさらに1部使わせていただきました。
- ・各教科・領域で新聞を活用した授業を行うこととして取り組み、届いた新聞はすべて図書室に置き、生徒もいつでも見られるようにしました。

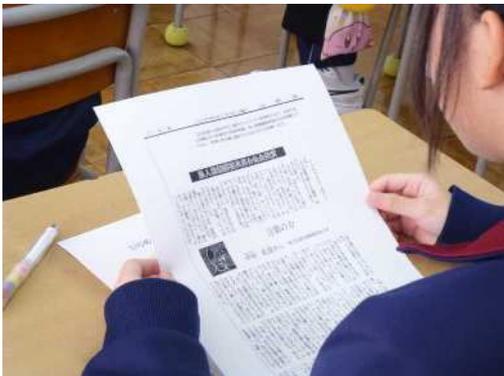


2年 理科

電気料金の値上がりを受け政府が令和7年1月から電気料金の補助を再開する記事を利用。政府の補助額が家庭の電気料金全体に占める割合を考えさせました。

2年 道徳

オリンピック関連記事から印象に残った記事を探しました。感動したことば、選手の苦労など、テレビではわからなかった選手の姿を見つけられました。



1年 学活

日報の人権作文入賞者の作文を使い、SNSの使い方について考えを深めました。具体的な事例に触れ、自分の問題として考えることができたと思います。



3年 国語

新聞のコラム欄から「漢語・和語・外来語・混種語」をそれぞれ抜き出し、各々どれくらいの語数が使用されているかを調べ、比較しました。

担当の先生から

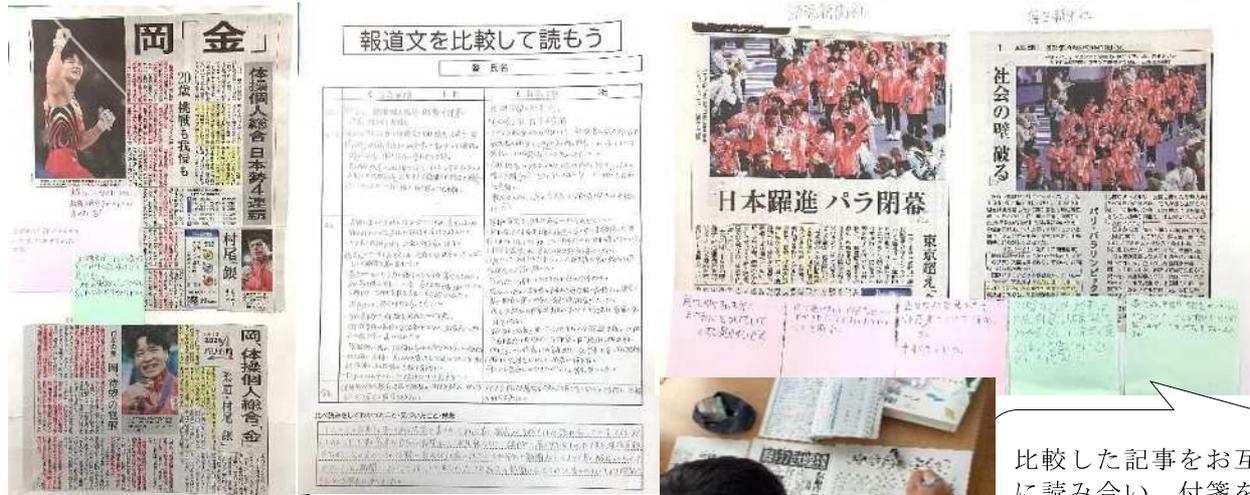
新聞をじっくり読む生徒が少なくなる中、授業の中に新聞を用いることで、しっかり読み込み、新聞のよさを味わうことができたと思います。また今回パリオリンピックの期間にあたり、廊下にオリンピックコーナーを設け、選手のサイドストーリーがわかるような記事を掲示したりもしました。いろいろな形でネットではわからなかった「新聞のよさ」に気づいてくれたらと思います今回の事業に取り組みました。これからも新聞を身近に感じられるような取り組みを続けたいと思います。

新潟市立金津中学校

金津中学校長 武樋 伸明

新聞活用の様子

日常的に新聞に触れる機会を設け、情報活用能力の育成を目指しています。各教室に配備された複数社の新聞を活用し、主体的・対話的で深い学びのある授業を目指しました。また委員会活動の一環として、新聞コーナーの管理や、生徒が興味をもった記事を紹介する活動にも取り組みました。



同じテーマを扱った、異なる社の新聞記事を比較し、その表現方法の違いを考えながら読みました。見出し、リード文、写真など、さまざまな角度から対比させて活用しました。【3年 国語】

比較した記事をお互いに読み合い、付箋を使って感想や意見の交流をしました。



図書室前の廊下に設置した新聞コーナーです。司書教諭の支援を受け、記事にコメントをつけてみました。【委員会活動】

地域巡検活動のまとめを、ふむスタやロイロノートなどのアプリを使って行いました。紙面のレイアウトや、記事の書き方を参考にすることができます。【1年 総合】



担当の先生から

新聞が身近にあることで、生徒も職員も、新聞を用いた活動への意識が高まりました。インターネットも含め複数の情報を比較しながら読むことは、現代社会や経済の変遷の様子を読み取る（3年社会）など、継続した取組にもつながりました。今後も新聞を生徒が気軽に読める環境を整えていきます。そして学校生活におけるさまざまな場面で、新聞を取り入れた活動ができるとよいと考えています。

新潟市立白南中学校

白南中学校長 和泉 哲章

新聞活用の様子



①朝、放送委員の生徒が『今日の一面トップ記事』をアナウンスしている様子です。毎朝、行っています。



②廊下に設置している『新聞コーナー』です。休み時間に生徒が読んでいる姿をよく見かけます。



③技術の「エネルギー変換」の授業で、資料として新聞を活用しました。



④2学年の総合的な学習の時間の、「南区地域福祉アクションプラン」を実現するため、地域課題の解決について考える取組です。

担当の先生から

本校は毎日、放送委員の『今日の一面トップ記事』のアナウンスで、1日が始まります。また、何かの用事で生徒たちが集まるとき、よく『新聞コーナー』に集まります。これからも、新聞を身近に感じられる環境を大切にしていきたいと思います。

[具体的な実践]

- ・総合的な学習の授業で、地域の課題解決法について、提案をまとめるために、これまでの新聞記事（データベース）を活用しました。
- ・技術の「エネルギー変換」の授業の中で、いろいろな発電方法の特徴について調べた後、思考を深めるために、資料として新聞記事を活用しました。

新潟市立小新中学校

小新中学校長 保科 賢一郎

新聞活用の様子

特に総合的な学習の時間の情報収集や意見交換に活用しています。また、図書館教育として新聞の内容に合わせた書籍の紹介も行っています。近年フェイクニュースがはびこる中、新聞は正確な情報と考えて学習活動を展開しています。



谷川俊太郎さんの特集です。新聞記事と図書館にある書籍を展示して作品を鑑賞しました。



図書館の入口付近の書架に三紙を置いて、図書館に入らなくてもいつでも読めるようにしました。



総合的な学習の時間に必要なスクラップをロイロノートに保存し、常時読めるようにしました。



「教科書は紙かデジタルか」を新聞記事をもとに、先生と生徒が議論している場面です。

担当の先生から

- (1) 成果：インターネットで検索するだけでなく、新聞記事と比較しながら情報を集めることで、より確かな学びを成立させています。新聞を読むことによって、必然的に自身の興味以外のことにも目を向けていました。
- (2) 課題：新聞を購読していない家庭が増えている中、新聞の情報の重要さや確かさを認識できるような学びを工夫していくことが大きな課題です。

新潟市立東特別支援学校

東特別支援学校長 阿部 隆一

新聞活用の様子



新潟日報の紙面を活用してクラス新聞を作成しました。記事は生成AIで読みやすく編集してあります。

生徒のAさんが、クラス新聞に載せる記事を選択し、掲載する順番（1～3番）も決めます。スポーツの記事が上位になることが多かったです。



作った新聞は学級活動で発表しました。最初のうちは、教師に手伝ってもらったことが多かったです。

発表を繰り返すことで、自信をもって発表することができるようになってきました。新聞発表は友達に人気の活動になりました。

<実践の成果>

- ① 新聞を作成する場面では、興味をもって説明を聞き、積極的に新聞に掲載する新聞記事を選択することができるようになりました。その結果、学校や家庭で、記事の内容に関わる発言が増えました。（情報の収集、活用、発信）
- ② 新聞を作る活動を自分の役割と考え、「新聞が作りたい」と自分の気持ちを言葉で伝える姿が何度も見られるようになりました。
- ③ 新聞を発表する場面では、根気強く記事を読もうとする姿が見られるようになりました。（記事は生成AIを使用して、読みやすい表現に編集してあります。）
- ④ タブレットの写真機能と生成AIを使うことで、対象生徒の実態に合わせて、新聞記事の表現を変更することが可能であることがわかりました。

<実践の課題>

- ① どんな情報（新聞記事）を学習に取り入れるか検討する必要があります。
- ② 生成AIの使用について試行を継続し、強みと弱みを検証する必要があります。

<継続する取組>

○上記の活動のすべてを卒業まで継続し、Aさんの成長を発信したいと思います。